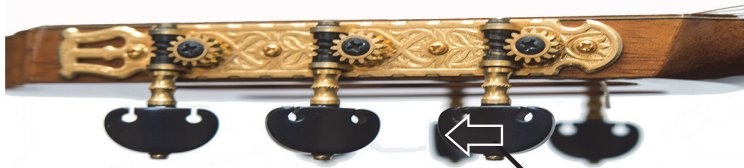


チューニングの方法2

それでは実際にペグを回し、6弦を「E」に合わせてみましょう。

下の写真の←の方^{ほう}に6弦のペグ^{げん}を回すと音が高くなります。回すペグを間違えないように気を付けましょう。



6弦のペグ



ペグを←へ少し回すと「E♭」と画面に出ました。

針は左にあるのでこれは低めの「E♭」のようです。

前のページの下^{した}の表を見ると、「E♭」は「E」より低い音とわかります。

まだ高くしなければいけないので、もう少し←へ回してみましょう。



「♭」がなくなり「E」だけになりました。

しかし、針が右側^{みぎがわ}にきています。

どうやら高めの「E」になっているようです。

今度は先ほどとは逆に→にペグを回してみましょう。



「E」のままで針が真ん中にきました。

これで6弦は正しい音にチューニングできました。

残りの5～1弦も同じようにして合わせていきましょう。

クラシックギターは基本的に←へペグを回すと音が高くなり、
→へ回すと音が低くなります。

エレキギターやフォークギターは違う場合もあるので気を付けましょう。

それから、6弦のペグを回しているつもりが5弦のペグを回していることがあります。

初めは弦をたどって回したいペグを見つけるようにしましょう。

《チューニングをする時の注意点》

・弦毎の合わせる音、アルファベットを覚えましょう。

6弦から英語では「EADGBE」、ドレミでは「ミラレソシミ」です。早口言葉のように覚えましょう。

・英語の音の名前と対応するドレミを覚えましょう。

覚えきれていない場合は必ず1ページ目の表を見ながらチューニングしましょう。

・弦をたどって、合わせたい弦のペグをきちんと確認しましょう。

・チューニングが終わったら必ずチューナーの電源を消しましょう。